

平成26年度

事業報告

自 平成26年4月 1日  
至 平成27年3月31日

## はじめに

京都染織文化協会は、染織祭衣装と全国染織産地合同制作布地という文化的価値のある染織資料を所蔵し、日本の染織文化、染織技術の啓発と継承を目的として様々な公益事業に取り組んでおりますことをご高承の通りと存じます。

今年度は当協会が保有しております特定資産が近年の円安傾向を受け増益している現状に伴い、京都府の指導のもと公益事業・会員事業ともに事業の拡大を行いました。具体的には、公益事業では日本の染織文化・染織技術の啓発と継承への取り組みを強化するため、染織祭衣装の展覧会としては7年ぶりとなる企画展「日本の衣装にみる技とデザイン展」を京都と名古屋の2地区にて開催し、日本の染織技術が頂点を迎えたといわれる昭和初期に制作された当衣装の数々を通して、一般の方々に向けて広く啓発を行いました。また、会員事業では会員の商品開発や販路拡大等のための費用の一部を助成するという会員のための助成事業を新規事業として取り組むとともに、伝統的な染織技術と先端技術を融合させた、新素材開発事業『京都ブレス』を継続し、開発した新素材を使ってファッション・インテリア製品を制作する新たなステージに踏み出しました。

ライフスタイルの多様化、きもの文化の継承不足、ファストファッションの拡大により、和洋問わず日本のファッション産業は低迷が続き、その影響によりものづくりの現場が失われつつあることで、染織技術の継承が困難となる危機的状況が続いています。当協会では、日本の染織文化・染織技術の継承のためには一般社会への啓発はもちろんのこと、染織産業の発展も大事な要素であると考えており、公益事業・会員事業のバランスをとりながら今年度は後記の通り事業を推し進めてまいりました。

今後も引き続き会員各位のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 平成26年度 事業報告

## 1. 会員の加入及び退会

	期首	加入	退会	期末
会員数	51	0	3	48

退会商社：(株)京都金栴、大京衣料(株)、(株)ルシアン

## 2. 会務

### ■第66期通常総会

平成26年 5月27日	京都ホテルオークラ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成25年度事業報告承認の件</li> <li>2. 平成25年度決算報告承認の件</li> <li>3. 平成26年度事業計画(案)承認の件</li> <li>4. 平成26年度収支予算(案)承認の件</li> <li>5. その他</li> </ol>
----------------	-----------	--

### ■理事会

平成26年 4月17日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成25年度事業報告並びに収支決算報告の件</li> <li>2. その他</li> </ol>
----------------	------	--

9月12日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 流動資産からの資産移行について</li> <li>2. 平成26年度新規事業計画(案)並びに補正予算(案)について</li> <li>3. KPA京都プリント振興協会主催『KPAメイキング・ワークショップ』に対する当協会の共催名義使用許可、賞状下付並びに助成金(50万円)の交付承認について</li> </ol>
-------	------	--

12月9日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (一社)日本テキスタイルデザイン協会『ShakeHand3.11&lt;vol.3&gt;』に対する当協会の後援名義使用許可並びに後援金(10万円)の交付承認について</li> <li>2. 宮井(株)『デジタル昇華転写捺染システム利用による建仁寺「風神・雷神図」の染色再現への挑戦』に係る助成金(50万円)の交付承認について</li> </ol>
-------	------	--

平成27年 3月19日	京都産業会館 5階会議室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成27年度事業計画(案)の件</li> <li>2. 平成27年度収支予算(案)の件</li> <li>3. 代表・業務執行理事の職務執行報告</li> <li>4. 第67期通常総会日程の件</li> <li>5. その他</li> </ol>
----------------	-----------------	--

### 3. 実施事業

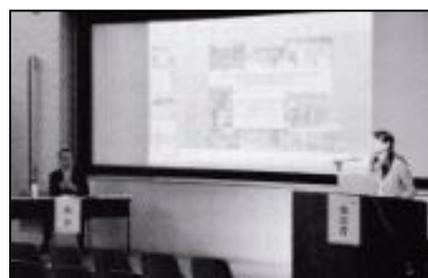
#### ■公益事業

##### (1) 染織文化資源の保全と啓発事業

当協会が基本財産に位置付ける「染織祭衣装」と「全国染織産地合同制作布地」を保全するとともに、これら所蔵資料にみる染織技術の公開や資料そのものの一般公開により一般社会に伝える知識普及啓発を目的とし、下記事業に取り組んだ。

##### \* 「染織祭」の詳細調査並びに公開

衣装制作の背景となった昭和6～15年に執り行われた染織祭について北野裕子氏（龍谷大学社会科学研究所客員研究員）に調査を依頼し、今年度は昭和15年（染織祭中止）～26年（織協引き渡し）までの染織祭衣装の状況についての資料調査を行った。染織祭並びに染織祭衣装の調査成果は当協会ウェブサイト並びにインターネット上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』に追加掲載して一般社会に啓発するとともに、去る5/17～18に女子美術大学（相模原市）で開催された「第15回服飾文化学会大会」で発表して全国の染織研究者に広く啓発した。（継続事業）



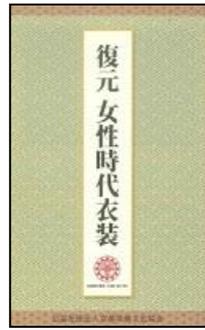
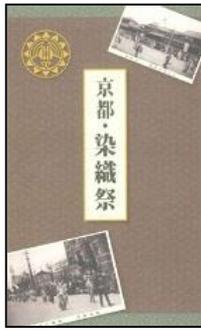
##### \* 染織祭関係史料のデジタル保存と保全

染織祭の記録や軌跡を保全するために、当協会が保管する染織祭関係史料をデジタル保存するとともに、劣化を防ぐ目的で中性紙箱を用いての保管に移行した。（継続事業）  
＜今年度着手作業＞

- ・デジタル保存の前作業として資料の分別、保存の手順確認。

##### \* 「染織祭」パンフレットの制作と配布

染織祭調査の成果として染織祭の軌跡ならびに染織祭衣装の詳細をまとめたパンフレットを1,000部制作し、当協会主催『日本の衣装にみる技とデザイン展』で配布して染織祭並びに染織祭衣装の啓発を行った。



**\* 染織技術アーカイブの作成並びに公開**

所蔵資料に使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容を当協会ウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏めて公開する目的で、染織祭衣装は北川満哉氏（学芸員）、全国染織産地合同制作布地は福井健二氏（染織専門家）に調査、解説を依頼し、今年度は次の通り公開した。

（新規公開内容）

「染織衣装」／鎌倉時代衣装 35 領

公開技術 「織る」……綾織物（固地綾）

「染める」……摺染、描絵



「全国染織産地合同制作布地」／1999 年春・夏物向布地 5 点

公開技術 「織る」……ストレッチ

「装飾」……オパール加工、エンボス加工

「特殊技術」…解燃糸



## \* 染織祭衣装の補修・修繕

今年度は平安時代衣装「裃」鎌倉時代衣装「桂」「小袖」の補修・修繕に着手するにあたり依頼先と協議の上、まずは鎌倉時代衣装「桂」の補修・修繕を行った。(継続事業)

<対象衣装>

鎌倉時代衣装 18号「桂」 1点

<依頼先>

松下装束店(京都市中京区)

## \* 染織祭衣装に関する展覧会

染織祭衣装を通して日本の染織文化並びに染織技術の継承と啓発を目的に、下記展覧会を実施した。

### ◎ 「日本の衣装にみる 技とデザイン展」

(名古屋展)

会 期 11月6日(木)～9日(日) 11:00～19:00

会 場 国際デザインセンター・デザインギャラリー(名古屋市栄区)

入 場 料 無料

来 場 者 272名

(京都展)

会 期 平成27年3月19日(木) 10:00～17:00※第2回染織文化セミナー同時開催

会 場 京都産業会館5F コムスホール

入 場 料 無料

来 場 者 129名



## \*所蔵資料貸付協力

(染織祭衣装)

◎NHK プロモーション等主催「没後 400 年 古田織部展」への衣装貸付

没後 400 年を迎える武将茶人・古田織部の活躍した安土桃山時代の文化を陶芸・漆工・染織を交えながら茶の湯の世界の魅力を伝えるため、安土桃山時代衣装より 6 領を貸付した。

(東京展)

展示期間 12 月 30 日 (火) ～平成 27 年 1 月 20 日 (月)

会 場 銀座松屋 8F イベントスクエア (東京・銀座)

入場者数 87,059 名

(広島展)

展示期間 平成 27 年 3 月 2 日 (月) ～4 月 12 日 (日)

会 場 奥田元宋・小由女美術館 (広島県三次市)

入場者数 16,985 名



## (2) 染織技術等継承事業

日本の染織技術を次代に継承していくために、染織に馴染みの薄い人たちにあらゆる方法でもって伝えることで認知と理解を深め、将来携わる人々を増やす目的で次の事業に取り組んだ。

### \*子ども向け染織技術啓発冊子の増刷と配布

きものをより身近な衣料として受け止めてもらうと共に、きものには様々な技術が使われていることをわかりやすく伝え染織技術の一端を知ってもらうことを目的に小冊子を制作し、子どもが初めてきものを着るシーンである十三まいり、七五三詣りに於いて次の通り配布した。



- 講師 小山弓弦葉 氏（東京国立博物館主任研究員）
- 内容 室町時代に登場し、安土桃山時代に最盛期を迎えた辻が花について語るとともに当協会所蔵の辻が花衣装 3 領を展示し、染織技術の啓発をはかった。
- 受講料 無 料
- 広 報 （会員・関係団体・美術館等）当協会より案内送付  
（一般）3/4 京都新聞夕刊に広告掲載
- 受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 59 名



### \*インターネットミニ染織講座の開催

当協会ウェブサイト内において、奈良時代衣装 8 号紵帯のレプリカ制作の過程を説明と画像、動画を交えて記載し、動画はインターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードし相互リンクして当協会ウェブサイトの閲覧を促した。

- ◎「紵帯のできるまで（染めた生地を柄を入れる＜刺繍＞）」  
更 新 日 4 月 8 日
- ◎「紵帯のできるまで（生地を紵帯の形状にする＜仕立て＞）」  
更 新 日 4 月 18 日
- ◎「紵帯のできるまで（紵帯レプリカ完成）」  
更 新 日 4 月 25 日



### (3) 染織技術等継承に関わる助成事業

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、当協会助成規定に基づき下記事業への助成を行った。

◎KPA 京都プリント振興協会主催「メイキング・ワークショップ 2015」への共催

会 期 9月26日(金)～28日(日) 10:00～18:00※最終日 17:00  
会 場 京都府京都文化博物館別館(中京区三条高倉)  
制作テーマ COLOUR ILLUSION  
出展者 13社 22組  
内 容 染色業に携わる職人の創造力、技術力の向上を図るため、制作の機会、発表の場を提供した。今回は「COLOUR ILLUSION」をテーマに明るく楽しいプリントを訴求し、色・プリント技術での意匠表現に挑戦したプリント服地の提案を行った。当協会からは共催名義使用許可、助成金50万円の交付並びに京都染織文化協会理事長賞の下付を行った。

来場者数 1,110名

◎(一社)日本テキスタイルデザイン協会主催「Shake Hand3.11<vol.3>展」への後援

会 期 平成27年3月10日(火)～15日(日)  
会 場 galerie H20(中京区富小路三条上ル)  
内 容 東日本大震災の被災地・東北をデザインの力で支援することを目的とし、東北の被災者が作った鮭のオブジェにボランティアが加飾して同展にて販売し、その売上金を被災者支援として寄付した。当協会からは後援名義使用許可並びに後援金10万円の交付を行った。

来場者数 約400名

#### ■会員事業

##### \*会員のための啓発事業

当協会会員の加入メリットとして、京都市美術館友の会へ会員登録を行った。

##### \*京都プレス事業

伝統的な染織技術と先端技術を融合させてまったく新しい素材の開発と加工を行い、市場での反応を調査した後、その技術と情報を会員商社にフィードバックする目的で取り組んでいるが、今年度は開発したグラスファイバー、特殊撚糸シルク、ポリエステル融着糸に加工を施した生地を完成し、製品化に取り組んだ。(継続事業)

<開発素材と用途（制作依頼先）>

- ・特殊撚糸シルク

コートドレス、ショール（Masayo Hasumi）

紅梅織着尺（京都府織物・機械金属振興センター）

- ・ポリエステル融着糸、グラスファイバー

バッグ（acylic 坂雅子）、帽子（Tokutaro HIRANO）

照明器具（近藤真由美事務所）

**\*会員助成事業**

歴史ある染織技術を継承し発展することを目的に、会員の企業活動に対する助成金を助成規定に基づき下記の通り実施した。

- ◎『デジタル昇華転写捺染システム利用による建仁寺「風神・雷神」の染色再現への挑戦』への助成金拠出

会員名 宮井 ㈱

内 容 京都市産業技術研究所と長瀬産業㈱が開発したデジタル昇華転写捺染システムを活用し、次世代型の染色技術の確立と将来の和装産業の発展に繋げるため、建仁寺が所蔵する「風神・雷神」の画像データをもとに、多彩で高精細な同図を当システムで再現するため研究開発した。最終的には本システムのデジタル技術を最大限に活用した成果として展示会を開発し、新技術や手順の確立を外部へと発信する。

助成額 50万円（総事業額150万円の1/3）